観察 Observation 6 月

カラマツの水滴

若者が夢を追うということ	高槻成紀	2
四季の移り変わり	吉岡愛美	3
ウサギの実習	吉田綾子	4
びっくり！	木村　碧	5
自然のおもしろみ	野口なつ子	7

若者が夢を追うということ

野生動物学研究室教授　高槻成紀

かつて指導した学生の結婚式に招かれた。私が指導したのは新婦のほうで、たいへんに才気に溢れた女性である。いっしょにシカの研究をしたが、最初の導入こそしたものの、あとは彼女自身が切り拓いていった。その研究成果のひとつは Journal of Zoology という１００年以上も伝統のあるイギリスの雑誌に公表された。

一方の新郎には初めてお会いしたが、やはり若手研究者で、先生や友人の挨拶から察すると、まちがいなく将来のある研究者のようであった。彼は幼いときから恐竜が大好きで、３歳のときに教えもしないので「恐竜」という漢字を覚えてしまったという。その後も恐竜まっしぐらで、高校時代も周囲が心配するほど受験勉強ではなく、恐竜あるいは好きな登山のことばかり考えていたらしい。高校時代に国立科学博物館の講義に出て、先生に「恐竜を研究するにはどうすればいいですか」と質問して、「それは東大に入っていい先生に指導してもらうことだよ」と言われたので、それを実現したという。実はその当の先生も披露宴に来ていて、その先生が言うには「そういえば、たいていの高校生は、そんなに大変なことなら」といって諦めるから、そういう発言をしたのに、新郎になる人はそれをまともに受け止めて実現してしまったということだった。東大生時代も恐竜と登山の熱はさめず、大学院に行くことになったときは、「研究を始めれば好きな山登りもできなくなるから、１年休学して登山に専念したい」といって、休学を申し出たらしい。そういう無茶な注文をする学生も学生だが、それを許可した先生も流石だと思う。大学院での研究では、恐竜の足跡の解析をするために、動物園で爬虫類や哺乳類があるくようすを観察したらしい。そのために一日中カメの前にいたが、対象とした動物はまったく動かないということもあったらしい。それでも彼は自分の研究の意義を認識し、そうした無駄とも思えることも楽しんでさえいたようだ。彼の行いはこの忙しい社会にあってはまず理解されないだろう。

そうした並外れた若者を貫いていたのは、考えてみればごくごく単純なことである。物心ついたときに好きになった恐竜にまっしぐら、それだけである。それは子供じみたことだ。子供というものはできもしない夢を見るものだ。大人になるとは、そういうことを卒業すること、それが複雑な思考であり、大人になるとは、そういう思考ができるようになることだ。世間はそう言う。

だが、本当にそうだろうか。少なくとも私は、子供の頃に抱いた夢を追い続ける「単純さ」に感動する。むしろ単純であるからこそ人の魂を揺さぶるのだと思う。

そう思えば「大人の思考」などともっともらしいことを言っているが、そのほうがあやしいと考えられないだろうか。それは有り体にいえば、妥協であり、夢の放棄というべきであろう。

＊ ＊

それは不思議な日曜日であった。その日の朝、私は朝食を済ませ、披露宴まで少し時間があったので、好きな Celtic woman の「You raise me up」を聴いた。そうして式に臨んだ

のであるが、式が始まって新郎新婦が入場したときにピアノ演奏されたのが、まさにその曲であった。不思議な偶然に驚いた。その感動的なメロディーは純粋な二人の若者にふさわしく、私は心から祝福の気持ちをもった。

自分の信じるところを貫く。その愚直な単純さを世間は嗤うが、私はそのような世間をこそ嗤い飛ばしたい。私は今の日本の若者はもっともっと単純であってよいと思う。あれこれ情報を集め、可能性を検討し、計算し、できそうもないものをすぐに放棄する傾向がとても強いと思う。

まっすぐな若者のまぶしいような姿をみて、実にさわやかな日曜日になった。

++

四季の移り変わり

動物応用科学科 4 年　吉岡愛美

調査地に赴き始めてから早いものでもう 1 年が過ぎた。毎月通っていると季節の移り変わりを感じることができる。

冬には裸だった枝にぽつぽつと新芽が芽生え、遠くから眺めると若々しい黄緑色をした絨毯のように見える。そうかと思えば、いつの間にか可愛らしい蕾をつけニセアカシアやヤマブキの白色やら黄色い花を咲かし和やかな気分にさせてくれる。葉はやがて青々しくなり夏の匂いを感じさせ、木漏れ日により森を一層神秘的に魅せてくれる。秋には、夏の間に浴びた太陽の陽射しと恵みの雨を蓄えた、色鮮やかで美味しそうな実をならせ小鳥たちを誘い出す。樹々は紅葉し花見に劣らず綺麗な姿を見せ、やがて冬になり散っていく。冬は冬で深々とした風光を見ることができる。

街中で暮らしていると桜やチューリップ、紫陽花など庭に生えている植物から季節を感じることができても、自然の景色から四季をあまり感じることができていなかった。今まではただ何気なく、暖かくなって桜が咲いたから春だなぁとか、柿や栗が実って紅葉の綺麗な秋が来たなぁと思っていた。しかし、山へ通っていると目の前は自然だらけ。山全体が四季それぞれを表わしている。そして、それは刻々と変化し調査へ行く度に色々な顔を見せてくれる。今日はどうなっているだろうかと調査日になるたびにわくわくする。

地元の人からすれば当たり前の情景なのだろうが、ときどき訪れる私の目には、実に美しく、偉大でさえあると感じられる。

++

ウサギの実習

獣医学科4年　吉田綾子

先日、実験動物を使った実験をした。使った動物は「ウサギ」。白く長い毛がふわふわしていてかわいかった。

先生の実験説明が終わり、各班にウサギが配置された。みんなでかわいがり、私も抱っこしたり撫でたりした。すると、鼻水がたくさん出て咳が止まらなくなってしまった。毛を吸い込んだのだと思い、マスクをしたがもう治らない。それどころかどんどん喉が腫れたような感覚になり息が苦しくなった。すぐに外に出て、うがいや手洗い、深呼吸をした。すっきりすることはなかったが、実験をサボるわけにはいかないと思い、少し咳が収まったところで実験室に戻った。すると、すぐにまた同じ症状が出る。そのうちぼーっとしてきて字を書くことや会話も辛くなった。出たり入ったりを繰り返しながらも何とか実験を終えたときには、体が重く、動悸がし、肩で息をしないと呼吸ができないほど息苦しかった。傘を杖代わりにして体を引きずるようにしてなんとか家に帰った。夕食は食べ物が食べ物と思えないほど食欲がなかった。入浴ではタオルをつかむことがだるい。体温を測ると熱があった。次の日になれば治るだろうとすぐに寝たが、息苦しさや体の中がとけているような、筋肉がふにゃふにゃになったような重苦しい感覚で何度も目が覚め、全く眠れなかった。

翌日になってもだるさが取れることはなく、息苦しく、だんだんと悪化していくようだった。立っているうちにと、やっとの思いで病院へ行き、診てもらうと『ウサギアレルギー』だということがわかった。

ウサギアレルギーを調べるために血液検査をしたのだが、先生からは「血液検査で陽性が出ても何ともない人もいれば陰性なのに動物に反応が出る人もいるので、この結果が完全ではない」ということを聞いていた。しかし、実際に数値として陽性と出てしまい、しかもウサギ以外の動物にも「陽性」の字を見つけてしまうと、いくら説明を受けていても暗い気持ちになった。

確実にもっと詳しく知って対策を立てた方がいいということで、今専門の病院で診察を受けている。さらにひどい症状が出たときのために、その場で自分で注射を打つ薬も持つことになった。

ウサギアレルギーとわかってもウサギを嫌いにはならないが、自分を苦しめるかもしれない動物であるということになってしまった。残念だけれど仕方がない。あまり恐れすぎずに、でも気をつけなければ、と思う。

この研究室の学生は動物に接触するのだからアレルギーには気をつけた方がいいと思う。「まさか自分が。」と思っているかもしれないが、突然反応してしまうので怖い。私も、ウサギアレルギーというものがあると聞いたことはあったが、まさか自分にそれが出るなんて思いもしなかったのだから。咳や息苦しさなど少しでもおかしいと思ったら、そこから離れてすぐに病院に行った方がいい。今回、私の場合は薬を飲んで収まったが、それでも体のだるさがなかなか抜けない。それほど自分の体には大きな負担になるものなのだと思う。先生に、「たかがウサギとバカにはできない。呼吸ができなくなって救急車を待つ前に

死ぬ人もいる。」と聞かされた。このことは身を持って危険を感じたので納得できる。

この文章を読んで、アレルギーは、自分の身近にあるものだと知ってもらえたらと思う。びくびくする必要はないが、そういうこともあると知っていて気にかけてもらえれば、そういうことが起こった時にもよい対処ができると思うからである。

++

びっくり！

動物応用科学科 3 年　木村　碧

最近の日常生活にびっくりする出来事が多かった。そのなかの２つを紹介します。

・ナメクジ編

６月 16 日、風呂場にナメクジが居た。初めはそれを放置して風呂を出たが、数分後『そういえば、ナメクジを掴んだこと、じっくり見たことがないなぁ』と思い、紙を持って風呂場に戻った（掴むのはやめました）。紙にのせて観察すると、なんとびっくり！

「ナメクジも頭部、胴部、尾というように区別が付くんですよ！」

おかげで、自分のナメクジ全体図のイメージにまちがいがあると自覚。そして、頭部側面にあった穴。初めは、何の穴か分からなかった。しかし、インターンネットで調べて生殖器の穴と判明し、新たな知識をゲットした。それにしても、一般的に、哺乳類や多くの虫などの生殖器の位置はお尻の方にあるので、頭部側面にあることに不思議な感じがした。それから穴を少しのあいだじーっと見て、突然、穴に向かって息を吹きかけて「あ！閉じた」と穴が閉じたことを確認。自分はなぜかこれを確認したかったようだ。

それからは、ゆっくりと動くナメクジを眺めていたが、『そういえば、まだ塩をかけたことがない』と思い、実行に移した。幅３㎜長さ５㎜くらいの塩の塊がナメクジの胴と尾の境目を中心に落ちるとナメクジの動きが一変。もがいては逃げるように速いペースで動き回るナメクジがいた。私は

「お！身の危険を感じたのかな？」

と思いながらナメクジを眺めていた。しかし、ナメクジが紙を持つ自分の手に向かって来た。持ち位置を変えることができなかった私は素早く華麗に玄関へ行き、扉を開けて玄関脇に紙とともに置いて扉を閉めた。

翌日、インターネットでナメクジを調べていたときにも、自分のナメクジに持っていたイメージのまちがいを発見した。それはナメクジの４本の触覚についてである。長い２本は先端に目があることを知っていた。しかし、残りの２本はただの触覚ではなく、なんとびっくり！

「味覚もわかるそうです！」

おかげで、ナメクジの不思議さに改めて実感が湧いた。いつもは、ナメクジに対して雨の日など踏まないように注意するだけだったのに、まさかナメクジの観察することになるとは思いもしなかった。なぜこのような時にこのような気分になったのか分からないが、それにより、ナメクジに関する知識が増えて満足でした。

PS：翌朝、ナメクジは紙を残してどこかに消えていました。

・矯正編

「矯正をしたことはありますか？」

私は、歯並びが悪くても矯正はしないと考えていた。しかし、人生に何が起こるか分からないと最近思った。今年３月、神経を取っていた歯が膿んだ。これは２回目。検査と治療しているうちに、矯正をすることになってしまった。そして、矯正のための検査をし、その結果と今後のことについての説明が行われた。その時、科学医療の凄さと人体の凄さにびっくりした。

まずは、歯の移植のことができるということである。今回、自分は神経を取った歯を抜歯し、そこに親知らずを移植することになった。矯正担当の先生の移植についての説明を聞くと、年齢を重ねると共に移植した歯が根付く確率は低下するようだ。上手く行けば、神経も繋がるらしい。そして、発端は立派な親知らずを抜いて捨てるのはもったいないということから移植の技術が発明されたらしく、アメリカでは１０年前からすでに歯の移植が行われているらしい。さすが、アメリカというべきであろうか。それにしても、こんなにも科学医療の技術が進歩していたことにはびっくりした。

次は、自分の頭蓋骨のレントゲンが見れたことである。自分の頭蓋骨を見るなんて生涯ないと思っていたから、ワクワクしてレントゲンを見続けた。そのとき、自分はきっと笑みを浮かべながら、目をキラキラと輝かして見ていただろう。先生から、何か質問はありますかと聞かれ、矯正とは全く関係ない「ここは何ですか？」「これは何ですか？」とレントゲンの見方や骨についての質問をしてしまった。最後は、下顎骨の関節突起とそれが填まる部分の関節窩についてである。それは、下顎骨を少し前に出すなどで、関節突起と関節窩との間に隙間があると関節突起が成長して隙間を無くすのである。そして、その現象は年齢を重ねると共に速度は低下するが一生起こることができるらしい。それを聞いて自分の体というより人体の凄さに感嘆した。

以上が最近のびっくりエピソードでした。

++

自然のおもしろみ

動物応用科学科 3 年　野口なつ子

私は、最近“おもしろみ”を感じることが多くなった。雨は降っていなかったのに植物に水滴がついていたり（排水）、イヤホンをつけて音楽を聴くのもいいけど、イヤホンをはずして野鳥の歌声を聴くのもいいかなって思ったり・・・。今まで気づかなかった、いや、気づこうとしなかったことが、今になってとても面白く感じるようになった。

きっかけとなったのは、高槻先生に「野口さん、ちょっとこれお願いします。」と言われたことであった。たまたま私が研究室に一人でいたときに、植物の標本の新聞紙の取替えを高槻先生はたまたま私に頼んだ。偶然の重なり合いだったが、これがきっかけとなったのだ。それから私は外を歩くときに植物を見ながら、周りを見ながら歩くようになった。

こうして気づいた“おもしろみ”をいくつか紹介したいと思う。

どこからきたの？

５月２１日、お風呂に入ろうとお風呂場へ・・・。いつものようにシャワーのお湯を出そうと手を伸ばした。

「・・・おや？なんと！」

あのイガイガの掃除用具のたわしから、小さな小さな芽が２つ顔を出していた。太陽のないお風呂場で、シャンプーやお湯がかかるこのお風呂場で、光を浴びるために生まれてきた。私は「こりゃ面白い」と思い、育てることにした。お風呂場は危険なため、お弁当箱に少し水を張りその中にたわしを置いた。

５月 26 日、３つ目の芽が出た。最初にあった二つの芽とは形が異なり、まん丸のかわいらしい芽である。５月 27 日、最初に生えていた二つの芽から新たに葉が生え、順調に成長している。毎日朝起きてからこの芽たちを見るのがとても楽しみである。小学生のとき、学校でサクラソウの種を植えたときの気持ちを思い出した。いつ芽が出てくるのか、いつ花が咲くのかと待ち遠しく思っていたあの頃と同じ気持ちになった。

そもそもなぜ、たわしに種がついたのだろうか。我が家のお風呂場には窓はあるが、ネコが外に出てしまわないように窓は閉まっており、窓を開けるときは網戸をしている。考えられるのは庭作業をした後、足に付着した土を洗い流すためにお風呂場へ行き、落ちた土を掃除しようとたわしを使ったときである。また、外から網戸を抜けてお風呂場へ侵入し、掃除したときにたわしに付着したと考えられる。しかし、網戸の穴の間隔より種の大きさ

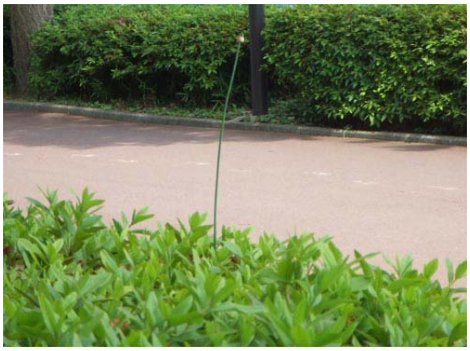
が小さくないと入ってこれない。この植物が成長して種をとることができれば計測してみ

たいと思う。もし網戸の穴の大きさより種のほうが大きかったら、この予想は正しくないことがわかる。つまり、庭作業のときに種が運ばれてきた可能性が高くなる。

種がとれるまで、これからもたわしから生まれてきてくれた植物の観察と世話を毎日したいと思う。元気に大きく育って美しい花を咲かせてくれたらうれしいな。

太陽の光を浴びるんだ！

５月上旬、麻布大学本館前にある、ツツジの茂みの中に気になるものを発見した。よく見てみると虫の目がたくさんあるような奇妙な植物であった。なぜ気になったのかというと、信じられないほど背が高いからである。高さは１メートル以上あり、私の肩あたりまである。ツツジの茂みの中から太陽の光を浴びるためににょきにょきとぐんぐん育っていた。他の場所でも見かけたが 30 センチほどのものから１メートル弱であり、こんなに長いのは初めて見た。しかし、残念ながら名前が分からない。



私は、学校に来て毎朝この奇妙な植物を見るのが日課になっていた。一生懸命に成長しているのを見ると、私もがんばらなくてはと思うからである。私はこの植物ではないけれど、よくここまで成長したなと達成感がわいた。しかし、この植物自身はもっと強く達成感を感じたと思うと、なんだかうらやましくなった。

数日後、この植物は誰かにむしり取られていた。あんなに頑張ったのに、一つの目標にむかってただただ一生懸命になったのに、こんな形で崩れ去ってしまうとは・・・なんだか人間の世界でもこんなことよくある。まるでいくら頑張っても認められない若造を見ているようだった。

雫

私は、雨があまり好きではない。傘は荷物になるし、靴の中は洪水になるし、駅で滑って転びそうになるし、雨の日は特にいいこともないからだ。最近は梅雨の季節で雨が多いため、なんだかぱっとしない。しかし、この雨のなかでも私は“おもしろみ”を感じることができた。

一つ目は、帰宅中の電車の中で見ることができた。電車のドアに雨の雫がたくさんついていた。その雫は電車のスピードが変わったときやトンネルに入ったときに踊り始めるのである。横や縦、いろんな方向に向かって何粒もの雫が一斉にすばやく動き出す。きらきら、ぱちぱち、と見ていて飽きない。おもしろい。

二つ目は、植物についた雨の雫が、信号の赤、青、黄色の光や街灯の光、車のライトに照らされている様子がとても幻想的で癒されるということである。大粒の雨に打たれたって強い風が吹いたって、スポットライトを浴びる植物の姿はとてもカッコイイ。生きているという感じがする。

なんだかちょっと雨が好きになった。

++

編集後記：木村さんの「ワクワク」には頭骨観察の演習の教育的効果があったのではないかと都合よく解釈しながら読みました。木村さんのもそうですが、野口さんの文章はオブザベーションにぴったりだと感じました。見出しのタイトルなどもふさわしく、謎解きの文章も楽しめました。タワシの植物は見たことがあります。キク科の外来種という気がします。「にょきにょき」はノビルのようです。写真の位置がうまく調整できませんでした（高槻）。